

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和3年度学校評価 計画

達成度（評価）	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> 「心の教育」で、教職員がより一層人権感覚を磨き、人権意識を高めて子どもたちの人権意識醸成に取り組んでいかなければならないことが浮き彫りになった。授業や学校行事の中で、目的意識をしっかりと持ち、年間を通して継続的に取り組んでいかなければならない。 「業務改善・教職員の働き方改革の推進」において教職員の年休取得が進んでいない。業務改善を意識し、ワーク・ライフバランスの取れた働き方を推進していかなければならない。 「志を高める教育」では、さらに郷土を誇りに思う児童を育てるために、地域の「ひと、もの、こと」を意識し、授業づくりに専心しなければならぬ。
2 学校教育目標	自ら学び、心豊かに成長し続ける児童の育成
3 本年度の重点目標	①主体的・対話的で深い学びの実現へ向けた授業改善 ②人権教育、特別支援教育の充実 ③家庭や地域との連携による望ましい生活習慣の形成

4 重点取組内容・成果指標	中間評価	5 最終評価
---------------	------	--------

(1)共通評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教員85%以上	・教職員個々のマイプランを校内研修で共有し、取り組みについて共通理解を図る。 ・「六角っ子ががんばろう週間」での保護者との協働による家庭学習習慣の定着 ・授業づくりに関する研修等の実施	B	・マイプランの成果指標を達成した教員は83%であった。全職員で取り組む追加項目についての共通理解を図り、普段の授業での取組を強化していく。	A	・学力向上に向け課題を把握して共通理解を行い、職員全員が意識して取り組むことができた。マイプランの成果指標を達成できたと回答した職員は100%であった。	A	・立腰は、効果が高いと思う。姿勢をよくすることで「気」が入り、勉強、作業、スポーツにも集中して取り組める児童が育成できると思う。鉛筆の握り方、筆圧、丁寧に書くこと、プリント等の管理能力を高めることが間接的な学力向上につながると思う。	
	○分かりやすい授業づくりへの共通理解と共通実践	○「なぜそう考えたのか自分の言葉で説明できる」と回答した児童を80%以上 ○教材研究に関する知識や実践力が向上した教員85%以上	・「六角っ子ががんばろう週間」での保護者との協働による家庭学習習慣の定着 ・授業づくりに関する研修等の実施 ・まとめにつながるめあての設定 ・児童のつぶやきや考えを引き出すための発問の精選	C	・児童の回答は75%、教員の回答は75%であった。授業の中で、問題の意味や思考の過程を説明する活動を取り入れていく。	B	・児童の回答は79%、職員は100%であった。これまでの活動を継続しながら、根拠を示して説明する習慣を身に付けさせる必要がある。	A	・中間評価では、児童75%職員75%であったのが、最終評価では児童79%職員100%と向上している。向上の兆しがあるためA評価とした。 ・子どもたちの「自分の言葉で説明できる」の項目がやや低かった。とても難しいことなので、目標をもう少し下げようか。	かしく部
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○「友達のよいところを見つけることができる」と回答した児童を95%以上 ○「協働」についての質問に対して、肯定的な回答をした児童を90%以上	・人権教育に関するアンケートの実施 ・人権教育や道徳科の授業づくりについての校内研修等の実施 ・多様性を認め合う場、互いのよさを生かして協働する活動等を仕組む。	B	・友達のよいところを見つけることができた児童は、81%であったが、質問の文言から自分に自信がないところがあるのではないかと考えられる。よさを見つける場面を今後も仕組んでいきたい。 ・「協働」について肯定的な回答をした児童は、91%であったので、持てるように活動させていきたい。	A	・自分や友だちのよさを見つけることができる児童が増えつつある。児童の意識は高まり、継続した指導の効果があった。しかし、個別に支援が必要な児童に対しては、さらに継続的な支援が必要である。	A	・町主催の人権コンクール応募作品を見せてもらった。	やさしく部
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○いじめ防止等(いじめの定義、いじめの防止等のための取組、事業対応等)について組織的対応ができていると回答した教員を90%以上	・いじめの対応マニュアルの見直し ・いじめの対応についての研修・会議を年間に3回以上行う。 ・教育相談体制の充実	A	・教員の意識は100%と高いが、今後も組織的に取り組むことを大切にしていきたい。 ・夏季休業中にはいじめについての研修の時間をもち、職員がそれぞれ思っていることを話し合うことができた。	A	・児童の様子、気持ちやその変化が継続的に分かるような工夫ができた。今後もその共通理解や情報共有をしていきたい。 ・夏季休業中には、事例を元に研修を行い、意見を出し合うことによりいじめに対する認識を深めることができた。	A	・常に意識をもって対応することが大切であると思う。 ・対応の仕方がきちんとマニュアル化されている。そのまま使うのではなく、毎回見直されているところがよい。	管理職 やさしく部
	◎児童が自己肯定感を高め、目標をもって意欲的に取り組もうとするための教育活動	○「自分にはよいところがある」と回答した児童90%以上 ○家庭でのあいさつとお手伝いについて、「できている」と回答した児童85%以上	・地域の教材を活用した授業づくり ・児童が目標や見通しを考え、振り返りを行う活動を仕組む。 ・家庭との連携・協働によるPTA「家庭の日」の取組の推進	B	・あいさつができていると回答した児童は88%。保護者は81%だった。家庭でのあいさつがあまりできていないようである。今後は、立ち止まりあいさつが上手な児童を全校で紹介したり、褒めたり、声かけをしたりして、立ち止まりあいさつを意識させたい。	B	・あいさつができていると回答した児童は90%。保護者は82%だった。校内での立ち止まりあいさつの意識が付いてきたので、さらに伸ばしていきたい。また、家庭や地域でのあいさつの大切さを改めて指導していきたい。	B	・家庭でのあいさつとお手伝いについては、保護者の取組や家庭環境が大きく違ってくると思う。学校の取組としてはすばらしいのではないかと。 ・10月の学習発表会ではどの子にも出番があり、よい雰囲気だったと思う。	かしく部 たくましく部 管理職
●健康・体づくり	◎望ましい生活習慣の形成	◎歯と口の健康について「家でも取り組んでいる」「生活に生かしている」と回答した児童80%以上	・生活習慣の改善に関する意識調査と実態把握 ・歯と口の健康づくりに関する家庭・地域と連携した取組の充実 ・保健だより等の発行	A	・1日3回以上歯みがきができていると回答した児童は88%。保護者は80%だった。授業や掲示物の工夫、家庭へのお知らせのプリント等で1日3回の歯みがき習慣化できるように啓発を図っていく。	B	・1日3回以上歯みがきができていると回答した児童は84%。保護者は79%だった。早起きができず朝の歯みがきができにくいようなので、生活習慣作りと合わせて、意識を高めていきたい。	B	・学校での歯みがき指導により、みがく児童が増え、大人になってからも続けること出来ている。 ・「歯と口の健康づくり」の研究成果に期待する。しかし、なかなか子どもの生活習慣を変えるのは難しいと思う。	たくましく部 校内研究部
	○安全に関する実践力の育成	○「安全に気を付けて行動することができる」と回答した児童90%以上	・学校安全計画や安全教育の取組の見直し ・歯・口の外傷の防止に向けた指導の充実と安全な環境の整備	B	・学校のきまりや約束を守っていると回答した児童は94%。保護者は88%だった。今後は廊下歩行の仕方の指導を重点的に行い、それを道路での歩行や信号待ちの仕方につなげていく。	B	・学校のきまりや約束を守っていると回答した児童は92%。保護者は85%だった。学校内では、廊下歩行の仕方が改善し、学校内の生活は落ち着きが見られる。家庭や地域での行動にもつなげられるように指導していきたい。	B	・途中の交差点で毎日立哨指導してくださっている方があり感謝。	たくましく部 校内研究部
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・毎週1回定時退勤日を設定する。 ・町内一斉定時退勤日の定時退勤を徹底する。	C	・毎週1回の定時退勤を職員一人一人が週の初めに設定して行っているがなかなか実行できないことが多い。月2回の町内一斉定時退勤日も行事の多い時期や成績処理の時期になると実践できない職員も多かった。	B	・時間外在校等時間の上限を超える職員は少なくなった。しかしながら、時間外勤務の時間数には個人差があり、その原因を探り、学校としての対策が必要である。 ・定時退勤日を意識して日々の業務に計画的に当たれるような手立ても必要である。	B	・週一の定時退勤日設定は、職員の意識づけになると思う。効果的に仕事をするには、プリント類の管理、パソコン内のファイルの整理、分類方法、不要ものの処分など、整理整頓が効果を上げると思う。	管理職
	○長期休業期間における年休取得の推進	○年休取得を5日以上全員が取得し、昨年度より1日以上多く取得した教員90%以上	・夏季休業期間の行事や研修等の見直しと効果的な実施 ・夏季休業期間は3日以上、冬季休業期間は1日以上年休取得	B	・職員会議の回数を毎月から二月に一回に減らした。それによって、部会などの回数も減り、授業づくりのための時間ができただけでなく、職員が先の見通しをもって勤務にあたることができるようになった。	A	・長期休業中は完全閉庁日の設定や行事や研修等を入れられない日を設定したことにより、ほとんどの職員が目標にしている年休を取得することができた。	A	・前年度よりも教職員の年休取得が改善できたのはよかった。	管理職
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
○特別支援教育の充実	○特別支援教育についての全職員の共通理解と共通実践	○特別支援教育に関する知識や実践力が向上した教員を90%以上にする。	・特別支援に関する研修会の実施 ・月1回の特別支援・生徒指導連絡会の実施、ケース会議開催により情報を共有し支援を行う。 ・不登校対策支援シートの活用	A	・教師の意識は100%と高いが、今後も研鑽を積んでいく必要がある。	A	・研修、情報共有など、積極的に取り組むことができた。ケースが多様化しているため、担任や担当者だけで抱え込まないようにする必要がある。	A	・特別支援在籍の児童生徒が増え、対応の仕方もさまざまとどんどんやり方も変わっている。学校に一人はそれに詳しい職員の方がおられたらいいと思う。	

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育

5 総合評価・ 次年度への展望	・分かりやすい授業づくりについては、着実に実践が効果を上げていると思われるが、まだ目標達成には至っていない。今後も児童が達成感を感じ、自分の考えを自分の言葉で説明できる児童の育成を目指して全職員で取り組んでいく。 ・あいさつに関しては、学校では出来ているが、家庭や地域ではまだまだ出来ていないということが明らかになった。今後も家庭への協力の働きかけと、児童の自己肯定感を高める取組を計画的に仕組んでいく。 ・歯と口の健康については、児童の意識もずいぶん高まりつつあると思われるが、朝の歯みがきが出来ていない児童が多いことが明らかになった。今後は朝の歯みがきの実施率を上げるためにも、早寝早起き朝ご飯など、生活習慣を改善できるよう、家庭との連携を図っていく。
--------------------	--